(民社党に期待する　各界からのアンケート(『週刊民社』1976年1月30日-1976.01.30

民社党に期待する

各界からのアンケート

（到着順）

アンケート

今年は解散・総選挙の年。そして民社党大躍進の年である。国民の利益を基点につねにスジを通して闘う民社党。公労協の違法政治ストに対してとった民社党の態度は多くの国民の支持を得た。民社党への期待は日一日と高まってきている。

そこで広く学者、文化人など国民各層の方々から「民社党に期待する」アンケートを得た。激励や叱咤（しった）などさまざまだが、底に「民社党よ、奮起せよ」の思いやりがいっぱい。この期待にこたえるように民社党は全力あげてがんばりぬく。

（次号も掲載します）

革新勢力として自信をもて

慶大教授　気賀　健三

民社は革新の安定勢力として最も信頼さるべき政党です。

共産、社会の両党は階級闘争のイデオロギーの神話にとらわれて、議会主義を尊重するといいながら、議会主義をふみにじって平気です。公明は無定見、日和見主義で、社、共の反自民闘争の道具に使われていることを自覚できないあわれな政党です。

民社こそは、議会主義の正道を歩む革新勢力として自信をもってもらいたい。

大ブロシキより真実訴えよ

評論家　大前　正臣

七十年代後半から八十年代にかけての日本にとって、生き伸びるための方法の選択幅はそんなに大きくありません。国民もそれをよく承知していると思います。現実離れした約束をしても失笑を買うだけです。

そこで民社党としては残された選択幅の大筋をつかみ、それを徹底的に訴え、理解してもらい、支持してもらうようにされんことを。

国民は大ブロシキでなく、真実を語りかけられることを望んでいます。

日本をもう少し不自由に……

美容家　大関　早苗

民社党に期待する「自由はいい」「自由はいい」。

何処かへ行こうとすれば何処までも行ける。何かにしようとすれば、何にでも徹しよう、でも限りはない。行動を起こしても人畜に危害のない限り誰もとがめない。

しかし、自由位、不自由なものはない。だってやっぱりナンテッタッテ、ナンテッタッテ、自分自身が責任をとらねばならないのだから。もうちょっと不自由な国に日本はなりませんかね。きっともう少し、もうチョット不自由が私達の暮しにあったら、この日本の国も社会も、もっとほんとうの幸せを、繁栄を、今に未来にいだけることができるでしょうに。民社党さん、もうちょっとこの国を不自由にしてくれませんか。

優秀な議員候補者の獲得を

作家　江上　照彦

民社党の綱領やイデオロギーは、まず理想的と言ってよい。しかし、それを実践するのは人である。

たとえば、どんなすてきな台本があり演出家がいても、役者が大根ではりっぱな芝居はできないわけだから、民社党当面の仕事の第一は、優秀な議員候補者の獲得に不断の努力を傾けることと思われる。探せば必ずや野に遺賢があるはず。芸能・スポーツ界のスカウトたちが、血眼になって金の卵を探している、あの熱意に学ぶべきだ。

綱領に忠実な党活動の実践

明大教授　岡野加穂留

民社への五つの願い

一、綱領に忠実な党活動の実践の拡大化。

二、自民党の〝右派的院外団〟イデオローグとは、手を切ること。

三、心の豊かな、立派な候補者を選出すること。

四、派閥を大きくすることより党を大きくするための努力。

五、人的クサレ縁で物事を考えないこと。

好機到来を信じて努力せよ

評論家　俵　孝太郎

ことし叩かれるものは、共産党と市民エゴ、労組エゴと三木内閣です。逆にことしから真価を認められるのは民社党と民主的労働運動です。好機到来と信じて奮闘されるよう。

識し、真に外交を語り得る人材によって党のリーダーシップを固めてゆくべきだと考えます。

産業民主主義の理念に立て

東工大助教授　慶谷　淑夫

国内的にも国際的にも多難の年を迎えますが、産業民主主義の理念に立った斬新な政策をとり、国民の合意を得、わが国の発展、国民生活の向上のために勇気のある措置をとっていかれることを希望します。

今年は選挙の年、民社党の飛躍の年とするよう頑張って下さい。

「良識」に好感期待をよせる

作家　伊馬　春部

近ごろ大体において「良識」の線を貫かむと志向しておいでのやうなので、その意味で好感をいだき、且つ期待を寄せてゐる次第です。

〝日本の今後〟民社党に託す

青学大教授　原　豊

党利党略に動かされて、国会が十分な機能を果していない現状と、物情騒然たる社会に入ろうとしている日本の今後を思うと、今更ながら民社党の伸長を願わずにはおれません。

国民に対して、民社党の存在理由を大いにPRして下さい。

スト中止要求に心から敬意

近畿大教授　奥原　唯弘

法の順守が議会制民主主義の根幹であり、スト権ストのごとき実力による法の改廃要求が許されるものでないことは明らかである。この点で違法ストを支持した社会党と共産党は、民主制国家の政党としての適格性をもたぬものであることがはっきりした。公明党はストの違法性を認めつつも、対応ぶりはあいまいであった。民社党のみが、違法ストとスト権回復とは別の問題であるとする立場から、断乎ストの中止を要求した。心から敬意を表する。

わが議会政治の健全化と擁護のために、民社党になにがなんでも発展してもらわねばならない。大多数の国民もこれを期待しているはずである。国民のこの期待を顕在化するための手段、方法を真摯に探るべきである。

大躍進を祈る。

公正と自由の調和に前進を

評論家　飯田久一郎

深刻な不況がいつまでも続いている中で、物価の上昇率を一ケタ台に抑えるという目標の成功さえ危ぶまれている。これは、公正の点で欠けるところの大きい現在の社会経済体制の行き詰まりと、抜本的改革の必要性を示しているといえる。とはいっても、改革が自由を犠牲にするものであってはならないことはいうまでもない。

真の公正と自由の調和という目標に向って、民社党が前進を続けられることを心から期待したい。

民社党の心根を信頼します

女優　村松　英子

民社党の心根を信頼します。春日さまの情熱とお人柄には惹かれっぱなしのひとりです。

政治の世界で、ほんとうに誠実さを貫く孤高の、民社党への期待は持ちつづけます。

議員数をせめて五倍にして

漫画家　長崎　抜天

来るべき総選挙では少くとも現在の議員数を十倍とまではゆくまいが、せめて五倍にして欲しいと思う。

荒んだ世の中民社が直して

漫画家　上田とし子

民社党には長らく期待をかけてきました。また〝お願い選挙〟が今年あったとしても国民が〝お願いします〟の選挙になってほしいと思います。刻々と庶民の生活は苦しくなってきています。〝おがみます。たのみます〟で当選した落語家の談志に清き一票をいれるような、ふざけた庶民もこれからはいなくなるでしょう。（私は文京区住民です。これは町民の話）

昨年の十一月末、零細・中小企業がバタバタ倒産し、「スト権奪還大スト」の最中でした。上野の町で薄汚れたネンネコに赤ん坊を背負った若い主婦がベロンベロンに酔って座りこんでいました。その手から六十円ほどのモヤシと二枚のコンニャクが紙袋がやぶけて道路にこぼれ落ちている。そばに五歳ぐらいの男の子がハンベソで立っていました。失業者の妻か、夫に蒸発された親子でしょうか。ソロソロその様な光景がちらつく時代になってきたようです。

民社さんしっかり頑張って!!と願っています。

日本の進路誤らないように

外語大助教授　中嶋　嶺雄

民社党の活きる道は、知性の政党として日本の進路に誤りなきよう期するところにあると思います。従って国際社会を広く深く認